

米国ベストセラー教育書の翻訳

『あたりまえだけど、とても大切なこと
子どものためのルールブック』を読む

これでワタシも最優秀教師

ロン・クラーク著，亀井よし子訳，草思社，2004

2005.9.24

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート
仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi

著者（Ron Clark）は米国の小学校で5年生を担当する教師です。彼は荒れたクラスをしつけによって立て直し，全米最優秀教師賞を受けます。そして，彼は，彼が子どもたちに守らせたルールをまとめて本にして，ベストセラーとなりました。

【問題】

この本には，50のルールが紹介されていますが，その中で著者が「最も大切なルール」としているのは，どんなものだと思いますか。

予想

- ア 「前向きに生きて人生をたのしめ」
イ 「いつも正直でいよう」
ウ 「きみのなれるもっともすばらしい人間になれ」
エ 「大人の質問には礼儀正しく答えよう」
オ 「相手の目を見て話そう」



最も重要なルール

著者が「最も重要なルール」としているのは、「大人の質問には礼儀正しく答えよう」というものです。「なぜならこれは、わたしがクラスの子どもたちには敬意をもって接してもらいたいと思っていることをはっきりさせるルールだからだ」として、著者は「礼儀正しい受け答えで子どもが面接試験に合格した」という事例を紹介し、「このルールは大人に対するときの便利な 道具 」としています。

原著でこのルールは「大人への答えには sir , ma'am をつけよう」として「Yes sir とか No ma'am と必ず答えること」となっています。「sir などをつけるのは軍隊的で嫌だ」という米国人も少なくありませんが、米国の学校では間違いなく「先生」と呼ぶときは、「sir」を使っています。

礼儀正しい子どもは大人の受けがよいことでしょう。

【問題】

原著では 55 のルールが載っていますが、日本語版では 5 つが削られて 50 となっています。では削られたルールはなんでしょうか。

- () 「軽蔑を身振りで示すな」
- () 「授業中は水飲みのために出て行かない」
- () 「身体とトイレを清潔にしよう」
- () 「絶対に盗んではいけない」
- () 「ドラッグや銃は持ち込まない」
- () 「エチケットの ABC」
- () 「ホテルの部屋にはチップを残そう」

削られたルール

削られたのは、以下の 5 つのルールです。

- ・ 「**軽蔑を身振りで示すな**」(RULE 8)

「舌打ちしたり、横目でにらんだりしてはいけない」ということですが、なぜ日本版では除かれたのでしょうか？

- ・ 「**飲み物を持ち込んでも良いが、授業中に水飲みに行っ**
てはいけない」(RULE22)

これは、どういうルールかというと、著者は授業中の飲食を「誰にも見つからなければよい」と容認しているのです。これが日本版で外されたのは、どんな配慮からでしょうか。

- ・ 「**あなた自身とトイレを清潔にしよう**」(RULE24)

このルールは次のように細かいものです「トイレのあとは、水を流し、手を洗いなさい。公衆トイレでは、手を洗う前に、ペーパータオルを取っておくこと。手を洗った後、ペーパータオルを使って蛇口を閉じ、新しいペーパータオルを取って、手を拭きなさい。他人が汚れた手で触れたところに、きれいな手で触れたくはないでしょう」

著者によると、米国には「水節約のため、小用のときは水を流さない」という家庭が少なくないようです。うちのボンズも、よくトイレの水を流してなくて、叱られていたなあ。

このルールが日本版で削られた理由は明かです。日本の学校のトイレには、ペーパータオルなんか無いものなあ。

- ・ 「**エチケットの ABC**」(RULE29)

これは「テーブルマナー集」です。読んでいてためになるのですが、なぜ省かれたのでしょうか。日本では、テーブルマナーは必要ない？！

・ 「ホテルの部屋にはチップを残そう」(RULE31)

欧米のチップの習慣は、日本人には煩わしいものです。

また、日本版には、原著にはなかったかわいいイラストがたくさん加えられています。こういうのは、向こうでは「幼稚」と見られますが、日本では好意的に受け止められます。

【問題】

ルールの7番目は「くしゃみをするときは、口に手を当てよう」です。では、著者はこのルールを徹底させるためにどんなことをしていると思いますか。

予想

- ア 口を手でふさがなかった子どもにはマスクをさせる
- イ くしゃみの中にいかにバイ菌が多いかを教える
- ウ くしゃみでカゼが移ることを実験する
- エ 「手でふさがないと悪霊が乗り移る」と脅す
- オ そのほか



だれかがすばらしいことをしたら拍手をしよう

迷信教育

著者はこれをルールにしたいきさつを「多くの子どもは、一度もこのルールを教えられたことがない。だから、私が何よりも嫌いなのは、カゼの季節に地下鉄に乗ることで、そこでは他人の咳やくシャミを避けようがない」と書いています。どうも著者は、かなり清潔さを気にかけているようです。

そして、著者がこのルールを徹底するために持ち出すのは、迷信です。「ちゃんと口をふさがないと、悪霊が飛び込んでくるぞ。でも、口をふさげばだいじょうぶ」と指導しています。宗教国家米国では、こういった迷信教育も問題にはならないのでしょうか。

英語圏では、クシャミをしたひとに対して、まわりのひとは「(God) bless you」(「神がまもってくださるように」) といいますが、それは、この迷信がもとになっているそうです。

うちのボンズもよく豪快なクシャミをしては、「手を当てなさい」と怒られています。

【問題】

ルール 8 は「何かをもらったらお礼をいおう」ですが、著者は「お礼を言う制限時間」も定めています。もらってから、どれぐらいの間にお礼を言わなければならないのでしょうか。

予想

- ア 3 秒以内
- イ 3 分以内
- ウ 3 時間以内
- エ 3 日間以内

細かな規則の効用

著者は「お礼は三秒以内」と定めています。著者はよく子どもたちにお菓子をプレゼントするそうですが、その「三秒ルール」を守れなかった子どもからは、お菓子を取り上げるのだそうです。このとき、その「ルール違反」を監視し告発するのは、ほかの子どもたちの役目です。

「テストで最高点を取ったときは本をプレゼントされる」というのも習慣的な決まりらしいのですが、最高点を取った子どもが、その喜びの余り感動して3秒が経過してしまったときも、ほかの子どもからの告発により、プレゼントは没収されたそうです。こうなると、徒競走で1位となっても、「3秒以内に感謝しないとメダルは剥奪される」ということにもなりそうですね。

さて著者は、これ以外にも細かいルールを多く設定しています。

- ・ ルール 3「だれかが素晴らしいことをしたときは、拍手しよう。拍手は少なくとも三秒間続けること。そのとき、十分に大きな音が出るように、両方の手のひら全体がピタリと合わさるように叩くこと」
- ・ ルール 39「全員で廊下を歩くときは、一列で、前のひとの50～60cmから1mほどうしろを、両手を身体の脇につけて歩こう。まっすぐに前を向いて歩くこと。絶対におしゃべりをしてはいけない」
- ・ ルール 16「教科から教科の切り替えは、できるだけ早く。使っていた教科書をしまって、次の教科書や教材を出すのに10秒以内、最終的には7秒を目指そう」
- ・ ルール 27「バスに乗ったら、必ず前を向いていること。後ろを見たり、窓から顔を出したり、席を立ててはいけない。降

りるときは、運転手にお礼を言おう」

- ・ ルール 29「食べ物を欲張って取らない。バイキング形式の食事では、皿の4分の3以上が隠れるほど食事を載せないこと。また、食べ物の上に食べ物を重ねるような取り方をしないこと」

こういった細かいルールを課すことに対して著者は「こんなことまで書くななんて馬鹿じゃないのか、と思われるのは分かっている。でも、子どもはそういう指示をとて喜ぶ」「こういうのを、まるで軍隊のようだという人がいるかもしれない。しかし、子どもは秩序と規律を好むものだと思ふ。事実、私のクラスの子どもたちは、整然とした列を作るのをたのしみ、列を組んで歩く自分たちに誇りを持っている」「静かにしろ、規律正しくしろ、秩序を乱すな」といふと、子どもたちに嫌われると思ふ方もおいでかも知れない。しかし、実際には、子どもたちは規律に従うのを大いにたのしんでいた。ほかのクラスの子どもたちがそれぞれの担任に、自分たちも同じようにしたいと言ひ出すほどだ」と評価しています。

それはシュワルツェネッガー主演の映画「キンダーガーデン・コップ」にも、よく表れています。そこでも子どもたちは、細かい規律に喜々として従うようになるのです。実際子どもたちは、たくさんのルールを作るのが好きです。

ボクが中学校の時に会った教師にも、細かいルールを要求するひとがいました。たとえば、常に机は、縦横に正確に並んでいなければなりませんでしたが、教師が指を3本出せば、教師が言った言葉を3回繰り返さなければなりませんでしたが。それらのル

ールが「教師の自己満足のため」ということはよく分かっていましたが、生徒たちは、おもしろがってそれに従ったのでした。

こういうルールが有効なのは、子どもたちばかりではありません。ヒットラーは『わが闘争』で次のように書いています。

大衆の心理は、すべて中途半端なものに対しては感受性が鈍いのだ。

女性のようなものだ。彼女らの精神的感覚は、抽象的な理性の根拠などによって定められるよりも、むしろ足らざるを補ってくれる力に対する定義しがたい、感情的なあこがれという根拠によって決せられるのだ。だから、弱いものを支配するよりは、強いものに身をかがめることをいっそう好むものである。大衆もまた哀願するものよりも支配するものをいっそう好み、そして自由主義的な自由を是認するよりも、他の教説の併存を許容しない教説によって、内心いっそう満足を感じずるものである。彼らはまた、たいていそれをどう取り扱うべきかを知らないし、しかも容易に見捨てられていると感ずるものである。彼らは破廉恥な精神的テロや、彼らが人間的自由をしゃくに障るほど虐待されていることにも気がつかないのだ。彼らは全教説のうちに潜む狂気に決して気づかないのである。そのようにして彼らは、目的のハッキリしているこの傍若無人な力や残虐さを見て、いつも屈服しているのだ。

このようにヒットラーは「完全に排他的で独善的教えを掲げて、大衆を支配することが、大衆の支持を得ることになる」としていたのです。

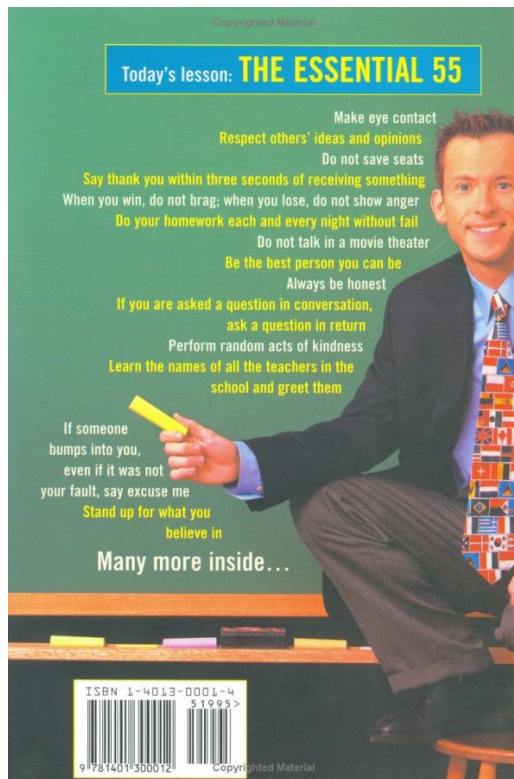
【問題】

著者も「完全に排他的で独善的」ルールを存在させています。
それはどんな内容だと思いますか。

予想

- ア 特定の銘柄の菓子を持ってきてはいけない
- イ 天候によって宿題の量が異なる
- ウ 必ず特定の色の付いたものを身につけていなければならない
- エ 教室に入るときは右足からはいる
- オ そのほか

米国のチョークはで
かい・・・



ドリトス禁止令

著者は「学校に ドリトス をもってきてはいけない」(ルール42)としています。ドリトスとは米国で一般的なスナック菓子です。米国では、昼食にこういったスナック菓子を持ってくるのもよいようです。

なぜ著者がこんなルールを定めたかという点、著者は子ども時代にドリトスについて嫌な思い出があるというのです。「私が子どもの時、姉と二人で留守番するときには、母はドリトスを一袋与えてくれた。しかし、姉はいつもなめまわしたドリトスを袋の中に戻して、私が食べられないようにして独り占めした」とのことです。そこで「個性とユーモアでルールのひとつとして採用した」そうです。

著者は子どもがドリトスをもってきているのを見つけると、すぐさま没収し、ぐちゃぐちゃにして捨ててしまいます。その様子がおもしろくて、わざとドリトスをもってくる子どももいるそうです。

ドリトスをもってきてはいけない理由は、ただひとつ「教師が禁じているから」それだけの理由でも子どもたちは喜んで従うのです。



【問題】

著者は「毎月たくさん本を読んだ子どもたち」に褒美として、どこかに連れて行きます。ある月には、プロ・バスケットボールの試合観戦の一泊旅行に行きましたが、次の月は地元のボーリング場でした。そこでボーリング場に行くことになった子どもたちは不平を漏らしました。

さて、ここから彼が導き出すルールは、なんだと思いますか。

予想

- ア 褒美に文句を言わない
- イ 運命を受け入れよう
- ウ 褒美は公平に
- エ

著者は、この問題をどう解決すると思いますか。

“Mr. Clark gave me the strength to hold on and be somebody. He is the one who believed in me . . . He told me not to give up. He told me to try and no other teacher did that.”

—Tamara, sixth-grade student, Harlem, NY

褒美には文句を言わない

「もらったプレゼントには文句を言わない」というのがルール 9 です。著者は子どもが「不公平だ」と不満を言うのに対して、ひどく傷つきました。「ほとんどの教師は子どもをどこかに連れて行こうともしないのに」と。そして「そこで彼らを懲らしめることにした」として、「人の善意を無にする」彼らから、褒美を取り上げたのです。

だから国民は権力者の「戦死すれば靖国にまつる」という「褒美」に文句を言わず、お国のために死なねばならないのです。そして、多く的人是、喜んでそれを達成したのです。それは「権力者が正しいことをしている」と信じたからです。

【問題】

ルール 18 で筆者は「宿題に文句を言うこと」を禁じています。では、文句を言った子どもには、どう対応すると思いますか。

予想

- ア 宿題を取り上げる（宿題無し）
- イ 宿題を倍にする
- ウ 居残り勉強をさせる
- エ 罰当番などをさせる
- オ そのほか

宿題交渉

著者は文句を言った子どもの宿題の量を倍にします。著者は「やらねばならない仕事の愚痴を言う人が嫌い、愚痴を聞くとイライラする。そんな愚痴を言う人間にはなあって欲しくない」という願いで、このルールを設定しているそうです。

しかし、彼は子どもが宿題の量について交渉することを許しています。「今日は地域の行事に参加する子どもがいるので、少し減らしていいませんか」というように申し出れば、全員の宿題を一律に減らすこともあるそうです。このあたりは、米国的です。

【問題】

著者の宿題に対する並々ならぬ関心は、ルール 15「宿題は毎日提出する。例外は許さない」にも表れています。さて、著者はこのルールを徹底させるために 3 つの方法を使っています。そのうちふたつは、「宿題をしてこない子どもは居残り勉強」と「宿題提出連続 日 の横断幕の掲示」です。では、残りのひとつはなんだと思いますか。

予想

- ア 全員がやってきたときには褒美を出す
- イ やってこない子どもを「村八分」にさせる
- ウ 毎日電話をかけて確認する
- エ そのほか

全体主義

著者が言う 3 つめの方法は「宿題をやってこなかった子どもを、ほかの子どもたちにとっちめさせる」というものです。「とっちめる程度は、その子どもによって異なる」そうです。「劣等生が宿題を忘れたときは、ほかの子どもたちに、にらみつけさせ、難癖をつけさせますが、優等生がうっかり宿題をもってくるのを忘れた場合には、一切罰を与えない」という具合です。

これらの方法で、彼は「全米どこをさがしても有り得ない 宿題連続提出 62 日」の記録を樹立したそうです。63 日目に宿題を忘れたのが、前述の優等生です。あれ？「例外は許さない」はずでは？？

また、彼は、宿題連続提出記録が 10 日を越えると、毎日クッキーを自分で作って、子どもたちに配るそうです。著者は「アメとムチ」の両方を必ず活用しています。

【問題】

著者は様々な褒美を子どもたちに与えますが、前述したように「褒美をもらってから 3 秒以内にお礼を言わないとき」は、没収となります。しかし、褒美が没収となる場合が、もうひとつあります。それはどんなときでしょうか。

予想

- ア 敬語を使い忘れたとき
- イ 褒美を要求したとき
- ウ 褒美をほかの子どもに与えたとき
- エ そのほか

褒美は、ただ与えられるもの

ルール 14 は「褒美は自分から要求してはいけない」です。著者は、テストの点数がよい子どもなどに褒美を出します。でも、子どもが「テストがよいと何かもらえるのですか」と質問しただけで、褒美は取り消しになります。著者はたくさんの褒美（一ヵ月に 万円分）を出していますが、子どもには「褒美を期待してはいけない」と教え込むわけです。これは、犬などのしつけの基本とよく似ています。「エサが欲しくて行動するんじゃない、ご主人の命令だから行動するのだ」と教え込むわけです。

【問題】

さてこのようによくしつけられたクラスは、著者である担任が休んで、代わりの教師が来たときでも、その秩序は維持されるのでしょうか。

予想

- ア 誰が来ても大丈夫でピシッとしている
- イ 学級崩壊となる
- ウ 多少は羽目が外れる
- エ そのほか

鬼が居ぬ間に

日本でも、担任がクラスを空けるときは、ずいぶんと心配するものです。でも、著者によると、米国では、「子どもたちが代替教師の言うことをまるで聞かない」という状況になるのがふつうのようです。つまり子どもたちは、「望んで担任の規範に従っているわけではない」ということになりそうです。

著者は「わたしは、自分のクラスの子どもたちには、ボスの目が光っていようがいまいが、勉強や仕事は自分のためにするものという気構えを持ち、自分の仕事に誇りを持てる人間になってもらいたいと思っている」とのことです。しかし、実際は、そうならないようです。

【問題】

そこで著者は、自分が休むときは、代理教師に「悪さをした子ども」を報告させ、後日その子どもを「見せしめとして懲らしめ」ます。著者は、そのほかに、もうひとつ「とっておきの方法」を紹介していますが、それはどんなものだと思いますか。

予想

- ア 監視カメラを設置する
- イ 非常用電話（ホットライン）を設置する
- ウ 父母や校長に巡視してもらう
- エ 自分の指示をビデオにとって、それを放映してもらう
- オ そのほか

やらせビデオ

著者は、休むときには、授業のビデオを作成します。そのビデオは、「さあ、みんな教科書を出して。168 ページを開くんだ・・・」というように、まるで著者が教室にいて授業をしている感じに作られています。また何人かの子どもを「サクラ」として用意しておいて、ビデオで「私には君たちの様子がよく分かる」と言ったら、「サクラ」の子どもに「本当なの？」と言わせるようにもしています。もちろんビデオには「そうだよ、　　くん、ちゃんとわかるんだよ」と記録されているわけです。

【問題】

ルール 26 は「きれいに後片付けをしよう」です。著者は教室のゴミを拾わせるために、どんなことをやると思いますか。

予想

- ア 厳格な賞罰を与える
- イ 拾ったゴミの数をグラフ化して競わせる
- ウ リサイクルについて学ばせる
- エ わざとゴミを落として様子を見る
- オ そのほか

ゴミ拾いテスト

著者は、子どもたちが教室に入ってくる前に、わざと教室にゴミを落としておいて、子どもたちがどうするかを観察します。そして、「ゴミを拾ったひとたち、・・・にはアイスクリームをごちそうする」と発表すると共に、「ゴミを見たけど拾わなかったのは、・・・」ということも公表するそうです。著者によると、「これがとっても効果的」だそうです。

【問題】

ルール 44 は、「信じるもののために立ち上がろう」で、「もし君の心と魂が、キミがこれこそ正しい道と信じるところへキミを導こうとするなら、ひるんではいけない」となっています。そして著者は、ルール 40 では「横入りをしてはいけない」、ルール 43 では「いじめられたときの対応」を書いています。

では、著者は「横入りをされたときや、いじめられたときは、どうしろ」としていると思いますか。

予想

- ア その相手ととことん対決する
- イ こちらの意志をはっきり伝える
- ウ 先生に言いつける
- エ 我慢する
- オ そのほか

トラブルの元は正義

著者は「私の子どもたちは、誰かに何かをされても相手に直接文句を言っただけでいい ことになっている」として「相手に直接文句を言ったり、言い争いをした場合は、良くないことをした人よりも大きな罰を受ける」と書いています。つまり、彼のクラスの子どもたちは、横入りをされても、いじめられても、自分で直接解決しようとしてはダメで、担任に知らせるのです。

これは著者の「一番トラブルを起こしやすいのは、何か良くないことをする子どもではなく、その子に文句をつけて騒ぎ出す子どもであることに気がついた」という経験が元になっています。ですからルール 43 は「もしいじめられたら知らせたい」となっているのです。これらの対応は、ルール 44「正義を貫く」と矛盾していますが、興味深いです。

そして、いじめの相談を受けたとき、彼はいじめの相手に「今後からかったり、いじめたりしたら、キミは私と全面对決することになる」と、いじめられた本人にも「キミが余計なちょっかいを出せば、同じように私と全面对決することになる」と警告（脅迫？）するのでした。

そんなわけですから、ルール 32 は、「だれかがぶつかってきたら、キミが悪くなくても、 すいません とか ごめんなさい といおう」となっています。

ルールがたくさんあれば、矛盾したものも多くなってきます。ルール 44「正義を貫こう」は、ルール 45「前向きに生きよう。人生をたのしもう。なかには腹を立てるだけの値打ちがないことだってある。視野を広くして、人生の素晴らしい面に目を向けよう」とも矛盾を感じます。そして、ルール 45 で「気にしたってし

ようがない」と言っておきながら、ルール 46 では「後悔のない生き方をしよう。あきらめてはいけない。欲しいものがあるなら、それを手に入れるために本気で闘おう」となります。うーん、なんだか弁証法的です。哲学しています。

そして、ルールは「間違いを受け入れよう」「いつも正直でいよう」「現在を楽しもう」という人生訓へと変化し、最後のルールは「きみのなれるもっとも素晴らしい人間になれ」となります。

【問題】

50 のルールの中で、子どもたちの学校生活に全く関係ないルールがひとつだけあります。それは、どんなルールだと思いますか。

予想

- ア 電話の対応はきちんとしよう
- イ 神様に感謝しよう
- ウ 宝くじを買おう
- エ ボランティア活動しよう
- オ アルバイトしよう

“As long as you have the ability to learn, he can do anything with you—he can make you a star.”

—Quameisha, sixth-grade student, Harlem, NY

電話の受け方

それはルール 36「かかってきた電話には、きちんとした対応をしよう」です。どうもこのルールは、著者が子どもたちの家に電話をかけたときの対応がまずいことに憤慨して作ったようです。

「自分自身や家族、あるいは家庭について、否定的な印象を持たれることのないよう、電話にはきちんと対応したい」とのことです。まあ、これは「職業教育」と考えられなくもありませんが・・。

【問題】

日本版と原著で、ルールの翻訳が明らかに異なっているものがあります。原著では「子ども同士でテストの 付けをするきとは、正しい採点のみ書くこと」となっているのが、日本版ではどういう表現になっていると思いますか。

予想

- ア 「互いに評価しよう」
- イ 「人の成績をいいふらさない」
- ウ 「ほめて、伸ばす」
- エ 「意外な親切でびっくりさせよう」
- オ そのほか

原著と違うルール

日本版では「人の成績を言いふらさない」というルールになっています。もちろん解説本文の中身は同じですが、タイトルの翻訳だけが違ってしています。

著者は「互いに評価し合うことの重要性」を述べると共に、「採点は、間違っているものに×印のみつけて、余計なことは書かない。採点を間違ったら、間違っただけ採点者の点数より引く」としています。

【質問】

著者は著書の終わりの方で「子どもとのつきあい方」として 4 つの「普遍的真理」をあげています。あなたならどんな「真理」をあげますか。

「信じるもののために
立ち上がろう」ステッ
カー 3ドル



「子ども」も「大人」も

著者があげる「真理」は、次の4つです。

1. 「子どもはシステムを好み、必要としている」

「子どもは安心感を求めると同時に、威厳をもって自分たちを管理監督してくれる人物を求めている」「子どもに好かれたいからと厳しくしない教師を、子どもは尊敬しない」この著者の考えは、間違っていないと思います。ときに管理的で厳しい教師や暴力を振るう教師までもが、子どもに尊敬されるのは、「自分たちのことを思っていることだ」と子どもが信じるからです。

しかし、このことは「子ども」だけのことではありません。「大衆は、哀願するものよりも、支配するものをいっそう好む」とヒットラーが言ったとおりです。

ボクは、この子どもたちが大好きな「管理」が苦手です。そこで、子どもたちが「管理が得意な教師」の悪口を言うたび毎に、「いいや、その先生は、あなた達のことを思っているから、厳しくするんだよ。ありがたいと思わなきゃねー。ほら、ボクなんか、あまりあなたたちのことを考えていないから、うるさく言わないでしょ」と言っています。生徒さんたちは、きまって「ひどーい!」と言います。

2. 「子どもは、ひとりの人間としてのあなたが好きなら、あなたのために一所懸命努力する」

これも「真理」です。「好き嫌い」は感情です。「総理の　　さんが好きだから投票する」というのは、論理的思考とは別のものです。だからヒットラーは、ひたすら感情に訴えたわけです。「宣伝の作用は、いつもより多くを感情に向かい、いわゆる知性に対

しては大いに制限しなければならない」「宣伝の学術的要素が少なければ少ないほど、そしてそれがもっぱら大衆の感情をいっそう考慮すればするほど、効果はますます的確になる。しかもこれが、その宣伝が正しいか誤りかであるかの最良の証左である」(『わが闘争』より)

著者は「なんとしても子どもに好かれない」と必死で頑張ります。でも「好かれないという気持ちを子どもに伝えると悪用されるので、子どもには 好かれないなんて思っていない」と言う」としています。ボクは、「好かれない」というよりも、「好き」という気持ちです。だって「相手が好きになってくれるかどうか」というのは、相手の気持ちの問題で、ボクの問題じゃない。

ボクも著者と同じように、生徒さんたちに「好き」とは言いません。でも、それは「悪用されないため」ではなく、恥ずかしいからです。(生徒が言うには、ボクが「素直じゃないから」だそうです)ボクは、子どもたちに「ボクが好き(嫌い)だから」という理由で行動して欲しくありません。

3.「子どもは、自分に何を期待されているかを知りたがる」

ヒットラーに言わせれば「闘うべき敵をただひとつだけ提示する」ということでしょう。目標があると、子どもたちは頑張ります。より「完全な支配」のためには、その目標は、具体的な達成基準が不明確な、抽象的なものでなければいけません。たとえば「クラスの団結」とか「改革」とかです。

ボクは、そういう目標を提示されても、「そんなの嫌だ」という、うちの生徒さんたちが大好きです。

4. 「子どもは自分が愛されていることを知りたがっている」

その通りです，子どもに限りませんが。ヒットラーだって大衆の生活向上にかなり気を配ったのですから。もっともヒットラーは，そういうことを「(大衆支配のための)回り道」と称していました。

また，ルール 25「宿題の内容について質問しよう」で，著者は「子どもたちには，いつでも自宅に電話をかけてきてもかまわない。もし不在の時は留守電を残すこと」としています。ただし電話は「宿題の内容に関することだけ」で「留守電に 14 回もメッセージを残す必要はない」とも言っています。

【質問】

著者は「子どもとのつきあい方」につづいて「保護者とのつきあい方」6 つの秘訣をあげています。あなたならどんな「秘訣」をあげますか。

「今をたのしもう」ステッカー 3 ドル 「Carpe Diem」とは，ラテン語で「今をたのしめ」というエピクロス派の哲学。



保護者とのつきあい方

1. 初めて保護者と接するときには否定的な言葉は決して口にしない。
2. 子どもの様子についてコメントする場合は、まず肯定的な話題から始める。
3. 服装はプロらしく。(スーツ姿の方が、保護者の態度が丁重で協調的になる)
4. 「ステキ手紙作戦」をする。
5. あらゆる機会に保護者に感謝の気持ちを伝える。
6. つきあい方が難しい保護者がいたら、遠慮せず校長に相談する。それでも解決しないときでも、無理に解決しようとしないうこと。

「ステキ手紙作戦」は、『たのしい授業』1989年1月号で小原茂巳さんが紹介されているものと大変よく似ていて、「子どもが何か良いことをしたら、いつでも手紙か電話で保護者に知らせる」というものです。ただ著者は、この作戦を子どもを罰するためにも使います。手に負えない子どもの親に「素晴らしいお子さんです。お母さんの教育の成果ですね」とまず嘘の電話をかけます。親は喜び、子どもはますます調子に乗って悪さをします。しばらくそれを我慢してから、こんどは「信じられないことなのですが、どういうわけか最近おかしいのです。そんなことでは、すばらしい育て方をしてくれたお母さんを侮辱することになるんだよ」と言っても、知らん顔なんです」と電話をかけます。すると親が、厳しく子どもを叱ってくれるというわけです。

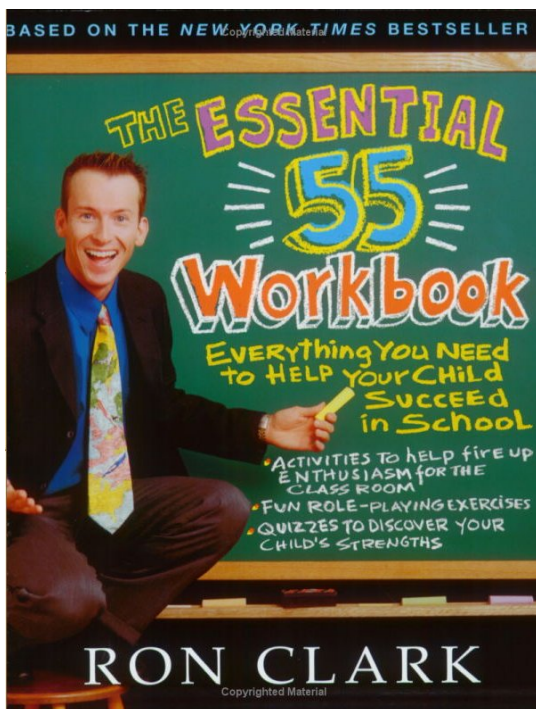
【問題】

この本 = 『あたりまえだけど、とても大切なこと 子どものためのルールブック』の原著の書名は『基本ルール 55』ですが、その副題は、なんだと思いますか。

予想

- ア 「あたりまえだけど、大切なこと」
- イ 「学級経営ヒント集」
- ウ 「優等生を作るルール」
- エ 「子どもと教師の笑顔のために」

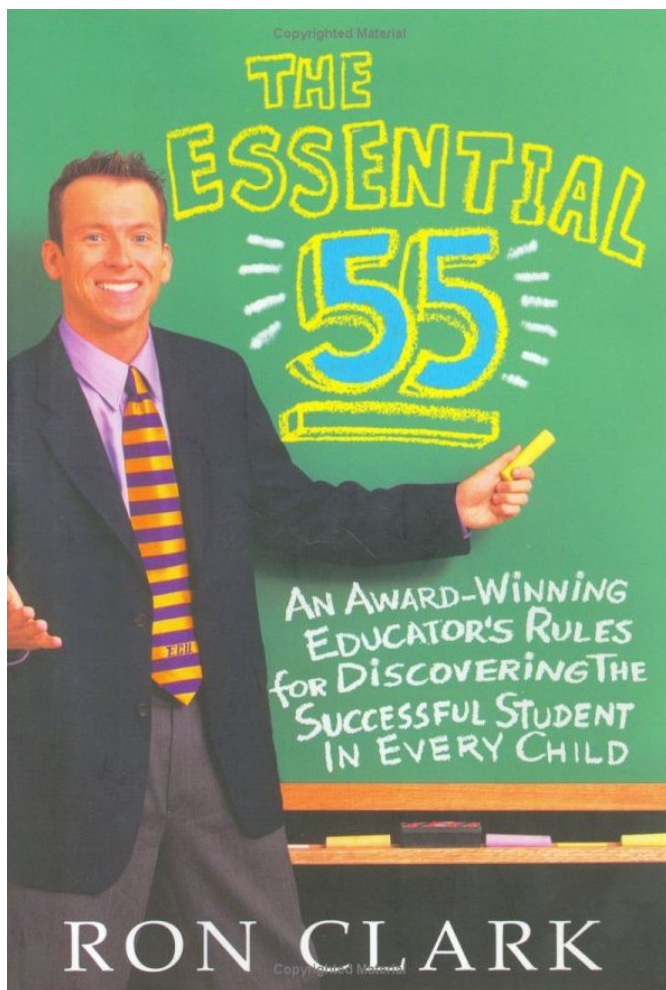
米国では「ルール 55」実践のためのワークブックも出版されている。



書名

原著は『THE ESSENTIAL 55 : An Award-Winning Educator's Rules For Discovering The Successful Student In Every Child』で、副題を訳すると『すべての子どもを優等生にするための受賞教育者のルール集』ということになります。目的がはっきり

しているわけ



【問題】

さて、著者は全米最優秀教師賞を受けたわけですが、それはどんな団体からの賞なのでしょう。その主催団体は、著名な民間企業です。では、どこだと思いますか。

予想

ア マイクロソフト

イ コカコーラ

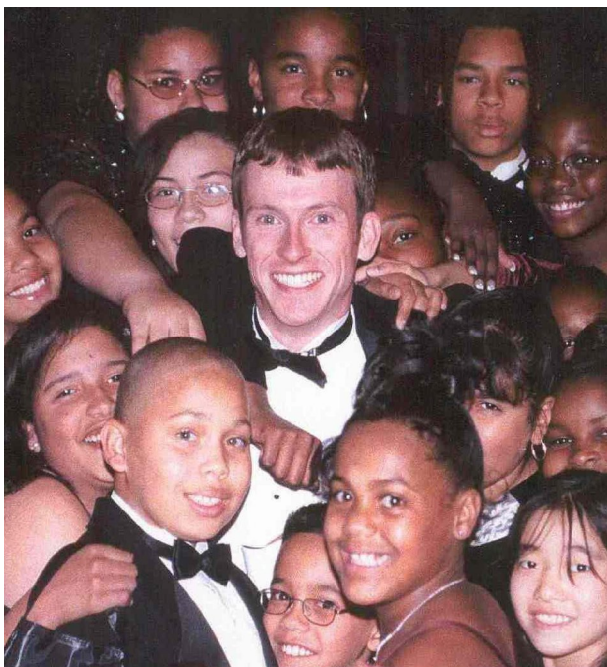
ウ NBC（放送ネットワーク）

エ ディズニー

オ 20世紀フォックス（映画会社）

賞のもともとの名前は、なんというと思いますか。

子どもたちと一緒に授賞式にて



ディズニーの理念

賞の正式名は「Disney American Teacher of the Year Award」＝「ディズニー全米優秀教師賞」というもので、主催はウォルト・ディズニーです。著者はその賞の中でも最高賞の「Outstanding Teacher of the Year」＝「最優秀教師賞」を受賞しています。ディズニーは、この賞を 1989 年に「教師は地域のヒーロー」として、「優れた教師の業績を広く知らしめる」を目的に授与しはじめました。受賞者には 1 万ドル、受賞者が勤務する学校には 5000 ドルが、それぞれ賞金として与えられ、授賞式はディズニーランドで行われます。

著者は、クラスでの新聞についての学習から、全国紙にタバコの害について広告を載せることになりました。それが大統領の目に留まったことで、クラスの子どもと一緒に、ホワイトハウスに招待されました。それが受賞の大きな理由であったことは、間違いありません。

ディズニーの理念は「プロテスタント倫理を強調し、奔放な空想を売り物にしながらも、つねに健全な常識を支えとし、だれにも楽しめて教育的効果も期待できるものの提供」(『世界大百科事典』より)です。ディズニーランドは、「大衆が金を払って現実を忘れて夢をたのしむところ」です。しかし、そこから「現実の暮らしや社会の変革」が出てくることはないでしょう。ディズニーが、教育に介入し、教師を応援する理由は、宣伝以外にも理由があるのでしょうか。



【問題】

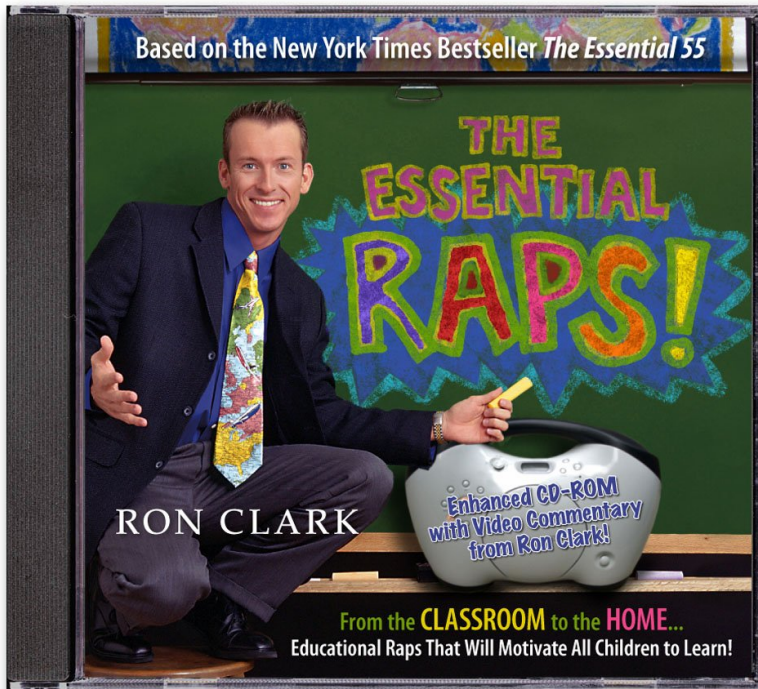
著者と学校の同僚や管理職との関係はどうだったと思いますか。

予想

ア 概ね良好

イ なんともいえない

ウ 概ね険悪



「ESSENTIAL55」がラップで聞けます。「ラップ大統領」や「ラブ惑星の名前」なんてのもあります。

http://www.ronclark.info/Teacher_Resources/rap_lessons.asp

同僚との関係

ルール 47「間違いを受け入れよう」で、著者は次のような経験を披露しています。著者は、向かいのクラスの女性教師と対立しています。彼女は著者のクラスに著者のクラブが校庭に置き忘れたテニスボールを投げ入れて「子どもが踏んで転んだら裁判沙汰になる」といいます。それに対して著者も「投げ入れたボールが、子どもの目に当たっていたら裁判沙汰になる」と返します。著者のクラスに贈り物が届きます。しかし、その中身は多数の虫でした。著者は子どもたちと一緒に復讐を誓います、著者はタマネギの切れ端を、彼女の机の中に隠します。やがて腐ったタマネギは悪臭を発しますが、著者は彼女が大切にしている綿の木が原因ではないかといいます。彼女は、泣く泣く綿の木を処分しますが、その後本当の原因を発見します。そして、彼女は復讐として、著者のクルマをタマネギのカケラづけにするのでした。

また、著者は校長や理事長とのいさかいについても、著書に書いています。このように、まわりの同僚や管理職とは、あまりうまくいっていないようですが、「みんなと違っていたからこそ最優秀教師賞に選ばれた」ということもあるのでしょうか。

ルール一覧

ここですべての「ルール」を一覧にしておきます。

ルール		内容
日本	原著	
1	1	大人の質問には礼儀正しく答えよう
2	2	相手の目を見て話そう

3	3	だれかが素晴らしいことをしたら拍手をしよう
4	4	人の意見や考え方を尊重しよう
5	5	勝っても自慢しない，負けても怒ったりしない
6	6	だれかに質問されたら，お返しの質問をしよう
7	7	口をふさいで咳やくしゃみをしよう
	8	態度で軽蔑を示してはいけない
8	9	何かをもらったら三秒以内にお礼をいおう
9	10	もらったプレゼンに文句をいわない
10	11	意外な親切でびっくりさせよう
11	12	人の成績をいいふらさない
12	13	人が読んでいるところを目で追うこと
13	14	質問には完全な文章で答えよう
14	15	自分から褒美を要求してはいけない
15	16	宿題は必ず提出しよう
16	17	教科の切り替えはすばやく
17	18	できるかぎり整理整頓をしよう
18	19	宿題に文句をいわない
19	20	代理の先生の授業でもルールを守ろう
20	21	授業中は許可なく席を立たない
	22	授業中の飲食は可，飲食のために教室を出るのは不可
21	23	先生に挨拶しよう
	24	あなた自身とトイレを清潔に
22	25	お客様を歓迎しよう
23	26	だれであれ，仲間はずれにしない
24	27	叱られている人の方をみない

25	28	宿題の内容について質問しよう
	29	エチケットの ABC
26	30	きれいにあとかたづけをしよう
	31	ホテルの部屋にはチップを忘れずに
27	32	バスの中ではおとなしく座っていよう
28	33	人の名前をしっかりおぼえよう
29	34	食べ物を欲張って取らない
30	35	だれかが何かを落としたら，拾ってあげよう
31	36	つぎの人のためにドアを押さえていよう
32	37	だれかとぶつかったらあやまろう
33	38	公共の建物にはいるときはおしゃべりしない
34	39	訪問先では何かをほめよう
35	40	集会ではおしゃべりしない
36	41	電話の対応はきちんとしよう
37	42	お世話になった人にはお礼をいおう
38	43	エスカレーターでは左側に立とう
39	44	全員で廊下を歩くときにはおしゃべりしない
40	45	横入りをしてはいけない
41	46	映画館では絶対におしゃべりしない
42	47	学校に ドリトス をもってこない！
43	48	もしいじめられたら知らせたい
44	49	信じるもののために立ち上がろう
45	50	前向きに生きて，人生を楽しもう
46	51	したいことがあるなら，やってみよう
47	52	まちがいを受け入れよう

48	53	いつも正直でいよう
49	54	現在を楽しもう
50	55	きみのなれるもっともすばらしい人間になれ

中には、おかしいものもありますが、そのほとんどが「わざわざ本にするまでもない」と思えるようなルールです。しかし、彼は、このルールを徹底することで、教育困難校から多数の優等生を出すまでになったのです。

【質問】

著者は間違いなく「熱血教師」で、米国では大きな支持を受けており、来年 1 月には、彼の人生をドラマにした映画「ロン・クラークの生涯」が TV ネットワークで放映されます。

では、あなたは、著者は日本でも「理想の教師」として強く支持されると思いますか。その理由も教えてください。



2004.10 クラーク先生は 10 名の生徒共に来日した。



日本でもベストセラー
この本は、出版時に各書店の売り上げトップ 10 に入りました。この本を日本で子ども向けに編集した『みんなのためのルールブック あたりまえだけど、とても大切なこと』も同様にベストセラーとなりました。

「集団生活でのルール」が何よりも要求される日本で、クラーク先生の実践

が評価されるのは、当然とも言えます。しかし、もともとこの本は米国でベストセラーになったのです。

実は、クラーク先生は、日本に滞在していたことがあり、著書でも日本人の礼儀正しさ（エスカレーターや電車の乗り方）を高く評価しているのです。彼は、日本での著書の出版に合わせて、かつての教え子 10 名と共に来日しています。その目的は「日本の教育システムを学ぶため」でした。

教育の崩壊に苦しむ個人主義の米国は、日本の集団主義から学ぼうとし、そして、未だに「模倣の時代」の日本は、それを逆輸入したようなものです。

「模倣の時代」は続きます。群馬県教育委員会は、『みんなのためのルールブック』をコピーして「ぐんまの子どものためのルールブック 50」を作成配布し、「盗作」の指摘を受けました。



(右が群馬県教育委員会作成のパンフレット)

群馬「子どもルール本」 模倣？ 常識？ 県教委作成

群馬県教委が小学生に無料配布するために作成した小冊子「ぐんまの子どものためのルールブック50」の内容が、米国人教師の著作と酷似していることが分かった。県教委は「アイデアを借りたもので盗用ではない」としているが、県民から指摘があるまで、参考にした著作があったことを明らかにしていなかった。

小冊子は、昨年末に県民から募集した1736点から「だれも仲間はずれにしない」「きれいにあとかたづけをしよう」など50のルールを選んで作成された。

しかし、構成は、米国人教師ロン・クラークさんが著した「みんなのためのルールブック」(亀井よし子訳、草思社)とそっくり。いずれも50のルールを理由とイラスト付きで紹介、うち15がほぼ同じだった。

クラークさんの「しかられている人のほうを見ない」に対し、小冊子は「しかられている友だちをジロジロ見ない」。「相手の目を見て話そう」は「相手の目を見て話をしよう」、「もらったプレゼントに文句を言わない」は「人からもらった物に文句を言わない」などとなっている。

こうした内容について、県民から「あたかも自分たちのアイデアのように前面に押し出すのは問題では」との指摘が寄せられた。

指摘に対し、県教委総務課は「著作権情報センターに問い合わせたところ、『アイデアならば盗用ではない』とのことだった。宣伝になってしまうとも考え、草思社側と連絡も取らず、クラークさんの名前も出さなかった」と説明している。

草思社の編集担当者は、営利目的でないとして問題視しない考えだが、「多くの教育委員会から部分的な引用について問い合わせがあるが、丸ごと冊子を作ったというのは初めて聞いた」と話している。

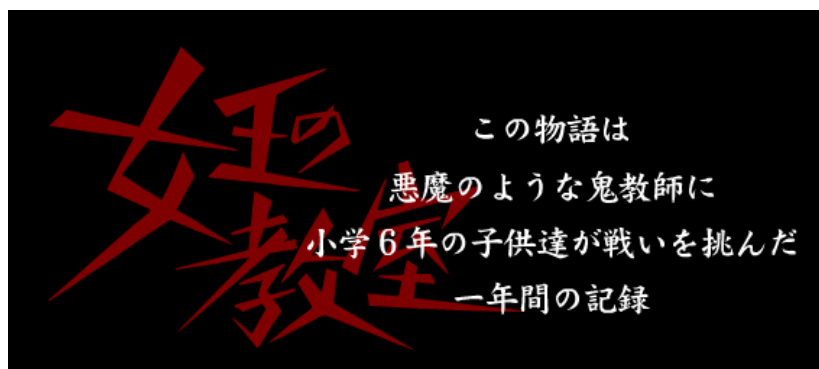
文化庁著作権課は「アイデアを使う分には別の著作物と認められ、著作権法には触れない。ただ、提訴される場合もあり、出版社の許諾を取った方が確実ではないか」と指摘している。

(2005年6月13日 読売新聞)

クラーク先生は来日したときのインタビューで明確に「教育はアメとムチのバランス。でも愛情は必ず伝えること」と彼の教育方針を述べています。教育内容が問われることはなく、方法だけなのです。

日本ではクラーク先生の上をゆく「教育はムチのみ。愛情も伝

えない」という教師が大人気です。それは、テレビドラマ「女王の教室」の小学校6年生担任の「阿久津真矢先生」です。阿久津先生は、完璧な独裁者でルールを子どもたちに有無を言わず強制し、反論を一切許しません。毎週テストをやり、上位二人には特権が与えられ、最下位の二人は「雑用係」となります。また彼



女のクラスには、夏休みもなく、私立中学進学へ向けて勉強します。前任校では、いじめを繰り返す子どもを「他人の痛みを知れ」と半殺しにしています。彼女の決め台詞は「いい加減、目覚めなさい」です。

最初は反抗していた劇中の子どもたちは、最後には阿久津先生を「本当はいい先生だけど、わざと悪者になって、私たちが強くなれるようにしてくれていた」と尊敬し感謝するようになります。いや、番組サイトにある「掲示板」には、実際の子ども（中学生が多い）たちがたくさん「ああいう厳しい先生に習いたい」と書き込んでいるのです。

【質問】

阿久津先生は、子どもたちの「なぜ先生は、そんなに厳しいのか。なぜ私たちをいじめるのか」という質問に対して、どう答えていると思いますか。

予想

- ア 人間は弱いもののイジメをする動物だから
- イ 弱いものはいじめられても仕方がないから
- ウ いじめられたときの解決法を身につけるため
- エ そのほか



「目覚めなさい」

阿久津先生は「なぜなら、人間は弱いものをいじめることに喜びを見いだす動物だから……。大事なのは、自分たちがそういう目にあったとき、耐える力や解決法を身につけておくことなんです」と答えます。どうやら性悪説による教育のようです。「いじめに備えよ。そのためにいま私がいじめる」というわけです。

現代の「恐怖政治」とは、政府による暴力ではなく、政府が恐怖で国民を支配しようとすることです。教育の世界でも、昔からこの手法が用いられてきました。「そんなんじゃ社会で通用しない」卒業して苦労するのはおまえだ」と脅かすわけです。しかし、教育界での「恐怖教育」は、事実でないことが明らかにされて破綻したように見えたのですが、最近またいろいろな「脅威」が叫ばれてきています。「脅威」があれば、国民は「強いものに守ってもらおう」と「とりあえず団結する」からです。

かくして国民は「改革の痛み（いじめ）に耐え」「本当はいいひと」として独裁者を支持するのでしょうか。そこでは、教育の内容が問題にならないのと同様に、政治の内容も問題とはならないのです。

教育の目的が「エリート養成」だった時代は終わりました。でもクラーク先生は、ひたすら優等生を追求します。また教育の崩壊に対する素直な反応としての懐古趣味が、「阿久津先生」を求めています。

でも、こういった「しつけの強化」で教育はよくなるのでしょうか。それこそ幻想なのです。本当に必要なのは「教育をつくりかえること」なのです。そして「徹底した子ども中心主義」のひとたちが、日々「たのしい授業」を実践しているわけです。（具体

的には、月刊誌『たのしい授業』仮説社をご覧ください)

「いい加減に目覚めなさい」阿久津先生は、いったい誰に向かって、そう言っているのでしょうか。

あとがき



「全米で最も優秀な教師による超基本ルール集」そんな帯を見て、「米国の教育ではどんなことが問題になっているのかなぁ」と思っ
て、書店で手に取ったのがこの本です。しか
し、書いていることは、「授業中は許可無く席
を立たない、おしゃべりしない・・・」。ボク
は笑い転げてしまいました。一瞬、「これは、
おかべりかさんの『よい子への道』のようなものか」とも思いま
したが、どうも真面目なものようです。そうすると「やはり米
国の教育崩壊は深刻なんだなぁ」と思ってしまいました。でも日
本でも、この本はベストセラーなのです。

本にあるルールは、エチケットやマナーであっても、最高のル
ールではありません。ルールには序列があるのです。「とにかく優
等生になればよい」「とにかく学力が向上すればよい」というのも、
ルールのひとつです。でもそれらも「未来の教育」にとっては、
最高のルールではありませんね。

キリスト教徒の両親に育てられた子どものほとんどは、キリス
ト教徒となり、イスラム教徒の子どもはイスラム教徒になります。
子どもは、その与えられた規範を盲目的に受け入れるからです。
しかし、成長するにつれ、ひとは自分で自分の規範を作り上げて

ゆくものです。でも実際は、大人になってからも、人々は「そういった規範を与えてくれる人を指導者になりたい」と思っているようにも見えます。

9.11 テロで息子を失ったある米国人は、軍隊に頼み込んで、イラクに投下する爆弾に息子の名前を入れてもらいました。復讐のためです。彼は政府の「9.11 はイラクの責任」という宣伝を信じたのです。そして、彼はいま後悔しています。

では、米国の爆撃で子どもを失ったイラクの人には、米国に子どもの名前を記入した爆弾を落とす権利はないのでしょうか。ノ



ーム・チョムスキーは、簡単な答えを示してくれています。「相手と自分に同じルールを適用すること」。このルールも「あたりまえ」なのですが、なぜかクラーク先生の本には、載っていません。

「女王の教室」は、定時制の生徒さんたちにも大人気。世論の支持は厚いです。わずかにハルコさんだけが「あんな先生はイヤダ」と、ボクの意見に賛成

でした。うーん、これでは抵抗勢力だなあ。でもよく考えてみれば、職員室でもそうかも。でも最近は「抵抗」していないで、勝手に動いてしまっているかも。そうかも。

いい加減に目覚めなさい！

笑

丸山秀一 kasetu.maruyama@nifty.com

Open your eyes

Cause I'm the one who loves you

Open your eyes

Cause I'm the one who needs you

I've tried in every way to show you

Why don't you open your eyes

I'm the one who 'd never let you go

Little darling how I love you so...

"Open your eyes" by FARAGHER BROTHERS

典拠文献

- Ron Clark 『The Essential 55』 Hyperion,2003
- ロン・クラーク著，亀井よし子訳，『あたりまえだけど，とても大切なこと』 草思社，2004
- Disney Hand Disney Teacher Awards
<http://disneyhandteacherawards.go.com/>
- Ron Clark Academy <http://www.ronclark.info/>
- 「カリスマ先生からのメッセージ，全米最優秀教師賞受賞口
ン・クラーク」『女性セブン』2004.11.18号，小学館
- 「女王の教室」公式サイト <http://www.ntv.co.jp/jyooou/>
- 読売新聞社 YOMIURI ONLINE
<http://www.yomiuri.co.jp/book/news/20050613bk12.htm>

参考文献

- ・ 「米国で最も優秀な教師」が、ハーレムの底辺校を変えた
<http://allabout.co.jp/children/ikujinow/closeup/CU20040928A/>
- ・ ロン＝クラーク著，亀井よし子訳『みんなのためのルールブック』草思社，2004
- ・ ロン＝クラーク著，松本剛史訳『親と教師にとって，すごく大切なこと』草思社，2005
- ・ おかべりさ『よい子への道』福音館，1995
『よい子への道』を開くと、「その1」から「その25」まで、よい子になるための厳しくも愉快的な修行の道が次々と指し示されています。まず「学校へもってはいけないうもの。1. ことばづかいのわるい石、2. ひげのはえるくすり、3. 超強力またたび、4. 自分とそっくりなロボット」など学校生活はいうまでもなく、子どもの生活の多岐にわたって、「～してはならない」おきてが掲げられています。
もちろん、これを読んだ子どもは、だれ一人として「よい子への道」の修験道を進もうとはしません。むしろ、掲げられたおきてをことごとく破りたくなり、たちまち「わるい子へ道」をひた走りたくなるのです。（書評より）
- ・ 板倉聖宣『発想法かるた』仮説社，1992
「似たようなしつけの本」としては、おかべりささんや板倉聖宣先生の本の方がおもしろいです。
- ・ 小原茂巳「ステキ手紙作戦」『たのしい授業』1989年1月号
- ・ おかべりさ『よい子への道2』福音館，2003

